

いきもの記

Vol.108 2024.5.15

この春卒業した21期生 下山田 樹
(元科学研究部生物化学班・昆虫研究)

卒業しても生き物愛は止まらない

ギバチ

みなさま“いきもの”は好きだろうか？やれアカスジキンカメムシだのエサキモンキツノカメムシだのベニツチカメムシだの、挙げ句の果てにカメムシタケ。リュウヘイ先生のカメムシ愛には感服だ。そんな先生のカメムシ愛とカエル愛が年々増しているこの「いきもの記」（私が偉そうに言うのはアレなのだが、vol.1から見ていくと、リュウヘイ先生の写真の腕がものすごーい上達している）、**私が書くのは多分今回が最後だ（卒業しちゃったし）**。最後はやはりハチだろうと予想した方、半分正解だ。今回は**ギバチ**という魚である。なぜ魚なのにハチなのか。この魚、胸ビレに毒があり、刺されるとハチのように痛むそう。またその胸ビレでギーギーと音を出す。なのでギーギーバチからギバチという名前になった（諸説あり）。そんな魚界のハチは、ヒゲを見れば分かるように、ナマズの仲間である。ただ、ナマズよりも小さく、比較的低水温の綺麗な水が流れる川に生息している。川の変化には弱めである。神奈川より北はギバチ。東海地方はネコギギ。関西、四国はギギ。九州にはアリアケギバチ。というよく似た種が日本各地に生息している。ちなみにネコギギは日本で4種しかいない淡水魚の天然記念物である。

最後のいきもの記を書きたいと思ってからだいぶ時間が経ってしまい、**卒業後になってしまった**。こんなに遅れたのは、**野生のギバチの写真を撮りたかったから**だ。そのために土日は、ズボン型のレインコートと長靴を履いて胴長代わりになってまだ寒い川に入っていた。が、当然冷たい水がめちゃくちゃ入ってくる。おまけに腕をまくって水中の石をひっくり返すもんだから、寒くて寒くて仕方がない。さらに靴下なんか履いてたら濡れて寒いもんで、裸足に長靴だったから靴擦れだらけ。結局、寒いせいだろう、ギバチは浅い場所では一切採取できなかった。そんなわけで、野生の個体を諦めて家の個体の写真で妥協した。昨年の夏、**四葉祭の蟲部屋の展示用に採集したもの**だ。最初は5cmほどだったが、今では10cm近くに成長した。

そんなギバチちゃん、**夜行性の魚**である。と言うか夜行性でなければ生きていけないだろう。飼育してよく分かったのが、**餌の取り方がへたくそ**なのだ。まず、泳ぎが得意でない魚あるあるの忙しく尾鰭を動かす泳ぎ方をする。そしてヒゲに獲物が当たると、そのエサを小さな口で食べる。が、割と失敗する。屋間にあんな泳ぎ方で襲ってきたら、バレバレだ。ましてや流速の早い場所に生息する生物が逃げきれないことはまずないだろう。人間で例えるなら、ウサイン・ボルトに鬼ごっこでは絶対敵わないけど、夜に寝込みを襲えたら、たとえ私であっても捕まえることができそうではないか？（ボルト選手すみません。）ギバチの狩りもそんな感じだ。また、ギバチは肉食なのだが、**実際に周りの魚のことを気にする**。夏に採集した際、水槽を作るまでの約1日ほど、他の魚達と同居させたのだが...まあすごい。汚い言葉を使うが、皆殺し。**今まで飼育した生き物の中でダントツで凶暴だ**。そんなギバチ、水質汚濁や河川改修によって各地で減少しているんだとか。隣の神奈川県では絶滅危惧ⅠA類と、いついなくなってもおかしくないのかもしれない。

さて、今回はこの辺で終わりにしよう。最後になるが、これまで筆者のいきもの記を読んでもくださったいきもの好きの皆様。ありがとうございます。また、いきもの記という名の筆者の大きな独り言に付き合い、なんなん感想まで送ってくださった国語科のT先生。知らない間に教室にいきもの記を貼っていた私たちの担任団の6人の先生方。そして最後の最後まで迷惑をかけたI先生とリュウヘイ先生。3年間ありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。そしていきものを探してみようか迷っている方へ。いきもの探しとはゲームでいうとオープンワールド＋無限にデータがあってほんとにマジで色違いの出ないポケモン＋たまごっち＋水陸両方あるアクションゲーム＋カメラや双眼鏡はFPSというものである。こんな素晴らしいゲームないだろう？騙されたと思って一度目当てのいきものを決めて探しに行ってみようか（ただし、よく下調べをすること！）皆様とフィールドでばったり会える日を楽しみにしています。



ナマズの仲間・ギバチ



ギバチの全身像

ギバチの胸ビレ
針には毒があり刺されるとハチのように痛む。また、胸ビレを使ってギーギーと音を出す。



こちらはナマズの顔